

「病気の子ども支援ネット」

入院中の子供たちと遊び、楽しい時間を届けるボランティア活動を続けているNPO法人「病気の子ども支援ネット」遊びのボランティア」(江東区)が、子供への接し方の基礎などをまとめた「遊びのボランティアハンドブック」を作成した。坂上和子理事長(53)は「多くの人が活動を知ってくれば」と話している。

【前谷宏】

遊びのボランティアは、新宿区の保育士だった坂上さんが91年に国立国際医療センターの小児病棟で始めた。入院中の子供は遊ぶ場所を奪われた中で病生活を余儀なくされ、ストレスもたまりやすい。仕事や家事を続けながら看病を続け、他の病院にもボラ

る家族の負担も大きい。坂上さんは病気に子供たちと遊ぶことで、彼らに元気を与え、同時に家族の負担を減らそうと活動を始めた。

当初6人だったボランティアは72人に増え、他の病院にもボラ

遊んで元気与えて

接し方などまとめた冊子作成

ンティア組織ができるなど活動は広がっている。一方で社会的な認知度はまだ低く、事故などを恐れる病院側が受け入れに消極的なのも実情だ。

そこで、活動を多くの人に知らせ、ボランティアに参加したい人に過去の経験やノウハウを伝えようとハンドブックを作った。A5判53ページの冊子で、子供にとっての遊びの重要性を具体例を交えながら記述。「医療行為をしてはいけない」「感染予防を徹底する」といったボランティア活動の基礎も書かれている。

また、3〜5歳児なら「ごっこ遊び」や「ままごと遊び」、小学生ならゲーム類など、子供の成長に合わせた遊びのアドバイスが書かれている。

坂上さんは「子供たちは病気で成長が遅れるのに、遊び相手もない状況に置かれる。子供好きなら誰もができるのに、冊子を通して活動を知ってほしい」という。問い合わせはNPO事務局(03

3521・1435)まで。



「病気の子ども支援ネット」が作成した「遊びのボランティアハンドブック」を持つ坂上和子理事長